

# 陸平通信

OKADAIRA 2021年12月1日発行  
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359  
美浦村文化財センター（陸平研究所）  
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471  
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

## 久しぶりの体験指導



県立歴史館にて

文化財センターは、今年度も新型コロナ感染拡大予防による臨時休館が続き、今年度は5月の連休中に「縄文体験の日」を開催することができたものの、夏休み中は再び臨時休館となり、予定していた体験事業は中止となりました。

10月から再び開館し、見学や体験で多くの人が陸平貝塚公園に来られています。

近隣小学校の、見学と組み合わせた土器作りやまが玉作り、県立歴史館に出向いての土笛体験など、体験指導に携わるボランティアの皆さんも活躍の場が戻ってきて、いきいきと活動されています。



## 展示替えおしらせ

文化財センター展示室は1月4日（火）より企画展を開催します。前号と今号でとりあげている木の根田遺跡と内出遺跡を陸平貝塚とともにご紹介する内容です。皆様のご来館をおまちしております。

※展示替えに伴い、12月21日（火）～28日（火）は休室になります。



よる岩石鉱物成分分析にかけたところ、Aは美浦村を含む地元の常陸台地が、Bは筑波山の南麓地域（土浦市から石岡市にかけての地域）が、粘土の原料産地つまり土器の産地と推定されました。

木の根田遺跡と内出遺跡は古墳時代の中期、5世紀の前半頃から末葉を中心に営まれたムラの跡ですが、土師器の細かい変化によってさらに6つの時期に分けられます。当時の建物は竪穴式のもので、調理に使われたと思われる火処は、囲炉裏のような床に設けられた炉が主体でした。それが5世紀末頃の時期になると、「かまど」と呼ばれる”かまくら”形の熱効率の良い施設がみられるようになります。

先程のBの胎土を持つ土師器の在り方を詳しく調べると、このかまどの出現に合わせるように出土量を増やし、しかも煮炊きを使う甕（かめ）形土器に多いことがわかりました。おそらくかまどの技術にともなつて、かまどの使用に適した土器も一緒に、筑波山南麓地域から持ち込まれた可能性が考えられます。

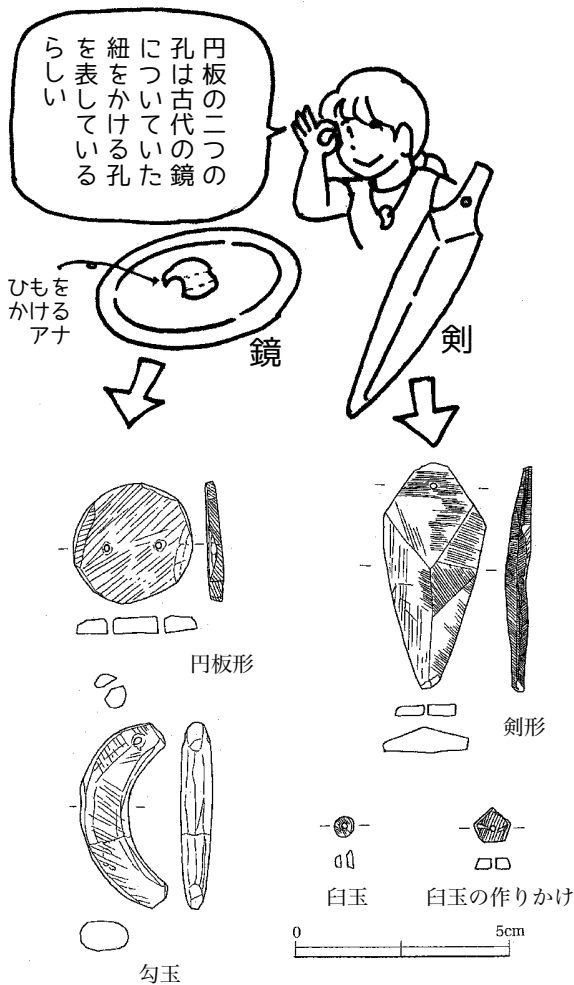
## 石で作ったマツリの道具

木の根田遺跡の遺物でもうひとつ特徴的なのは、滑石（かつせき）という蠟石のような柔らかい石で作った、マツりに用いたと思われる小形の石製品です。

代表的なものは、小さな穴が開いた円板形のものや一端が尖った形のもの、勾玉（まがたま）、ビーズのような小玉があります。円板形は鏡を、端が尖ったものは剣を模したものとされており、ビーズ状のものは白玉（うすだま）といいます。鏡、剣、玉は”三種の神器”ともいわれるように、古来神聖なものと考えられており、石製品はそれを象徴するものとして作られ、用いられていたようです。具体的にどのように使っていたかはわかりませんが、霞ヶ浦沿岸から下総地域では古墳時代中期に盛んに作られており、当該地域に住む人々の共通の習俗だったと思われます。

また、建物跡からは石製品の素材となる大きな滑石や、割って形をつくる際に出た細かな石片が数多く出土しており、継続的にムラの中でつくられていたことが想定されます。

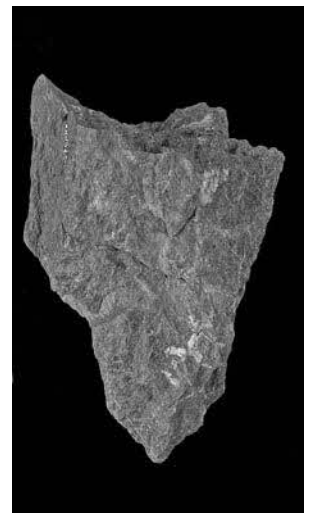
安中地区では他にも古墳時代の遺跡が発掘されており、今後、その整理・分析が進めば、より詳しい当時の人たちの暮らしが分かってくると思います。



▲滑石製品



◀線が彫られた珍しい剣形模造品



▲滑石製品の素材となる滑石片（割った2片が接合したもの）

# 遺跡発掘情報! きねだ 木の根田・内出遺跡 ~古墳編~

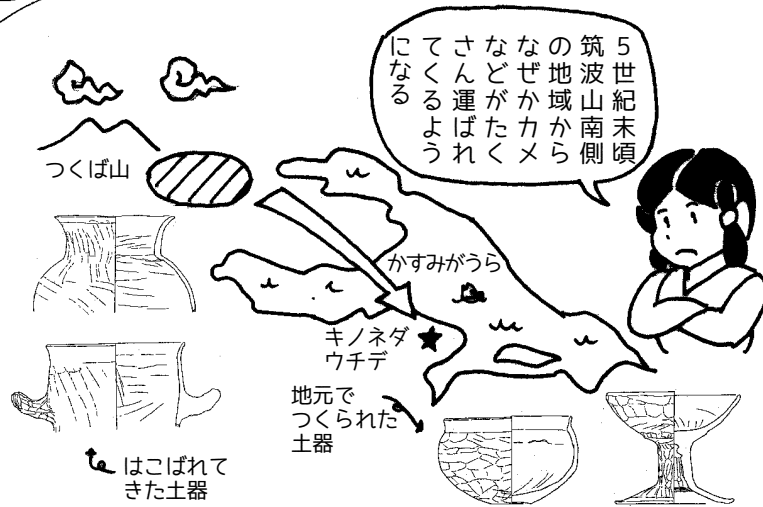
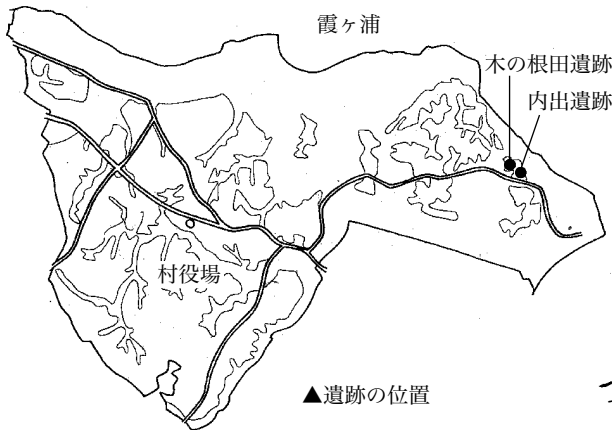
前号に続いて、安中地区に位置する木の根田遺跡と内出遺跡の調査成果をお伝えします。今回は古墳時代についてです。

木の根田遺跡からは、古墳時代の竪穴建物跡が26軒と、お墓である古墳跡5基、土坑12基が、内出遺跡では5軒の竪穴建物跡が検出されました。時期は古墳時代中期にあたる5世紀の中頃から末葉にかけての建物跡が中心となります。これらの建物跡からは、当時の道具や設備が発見されました。ここではその内の土師器（はじき）と呼ばれる素焼きの土器と、滑石製模造品と呼ばれる遺物について説明します。

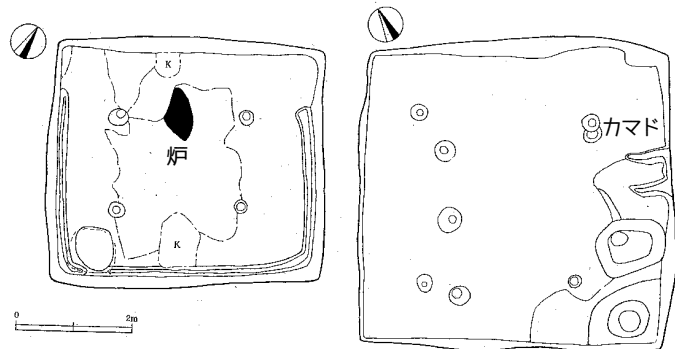
## 持ち込まれた土器

古墳時代の土器の代表は土師器と呼ばれる素焼きの土器です。縄文土器のような目立った文様は施されませんが、貯蔵のための壺や、煮炊きのための甕（かめ）、蒸し器である甑（こしき）、銘々器と思われる高杯（たかつき）や杯（つき）など、用途に応じた様々な形態があるのが特徴です。

素焼きの土師器は、登り窯などの施設がなくても焼けるため、各地域でつくられていたと考えられていますが、他所から持ち運ばれた土器も存在します。地元でつくられたものか、他所から運ばれたものかの区別の目安になるのは土器の粘土（「胎土（たいど）」といいます）に混じる鉱物や岩石粒の違いです。今回の調査では出土した土師器の胎土を肉眼で観察したところ、A～Eとした5つの種類が認められました。この内、Aの胎土が90%を占め、キラキラ光る白い雲母の粒が目立つBの胎土が8%程、他の三つは極少数でした。さらに、胎土AとBの土師器20点程を顕微鏡に



▲顔を表現したような貼付文がみられる壺形土器



▲竪穴建物跡にみられる炉とかまど

# 近場で楽しみながら、地域の歴史を知ろう!

文化財センターではこの冬、体験や歴史講座を開催します。どうぞご参加ください。  
すべて申し込みが必要です。参加される際にはマスクのご着用をお願いいたします。  
なお、新型コロナウイルス感染状況により中止になる場合もあります。

<会場および申込み先> 文化財センター 電話 886-0291

## 梅朝基礎落語

好文亭梅朝さんの落語で  
楽しいひとときを!

- ◆日にち 12月12日(日)
- ◆開演 午後1時30分から
- ◆場所 文化財センター
- ◆対象 県内にお住まいの方
- ◆定員 20名



※当日、席に余裕がある場合、参加可能です。  
お問合せください。

## ミニ門松づくり

簡単なミニ門松をつくります。

- ◆日にち 12月26日(日)
- ◆開演 午前10時～12時
- ◆人数 6名
- ◆参加費 500円
- ◆申込受付 12月1日(水)～19日(日)

※先着

※竹を切る作業があります。



## もっと知りたい!～陸平貝塚のはなし～

美浦村にある陸平貝塚は、将来ずっと守り残していく遺跡として平成9年国史跡に指定されました。なぜ陸平貝塚は国史跡になり保存活用していくのか、陸平貝塚がたどってきた歴史や、現在陸平貝塚についてはどのようなことが分かってきているのか、わかりやすくお話しします。陸平貝塚のことをもっと知りたい、少し興味がある、地域の歴史を知りたい、そう思っている方はもちろん、陸平貝塚をまだ知らない、関心がないという方も少し聞いてみませんか。ぜひご参加ください!

### ◆日にち

- ①2月13日(日)「陸平貝塚の発見」 講師：文化財センター職員
- ②2月20日(日)「陸平貝塚はなぜすごいのか～みんなで守った陸平貝塚～」 講師：中村哲也氏
- ③2月26日(土)「陸平貝塚からかいまみる縄文人の暮らし～調査の成果から～」 講師：中村哲也氏

◆定員 20名 ◆時間 各回 午後1時30分より

※当日、席に余裕がある場合、参加可能です。

## イノシシ注意!

陸平貝塚公園内ではイノシシが確認されています。捕獲のためワナをしかけている場所があり、目印で表示してありますので進入しないようお願いいたします。

イノシシは日中でも目撃されています。

散策される方は  
ご注意ください。



## 陸平貝塚公園までの交通アクセス

### 【車】 by car

常磐自動車道「桜土浦IC」より  
国道125号バイパスで約40分  
圏央道「稲敷」より15分

### 【バス】 by bus

JR土浦駅より西口①バスのりば  
木原経由江戸崎行き  
「谷津入」下車 タクシーで約5分  
または「大谷」下車 3.5km

